

令和6年度 きゅうり 技術情報 No.3

大船渡農業改良普及センター（電話：0192-27-9918、FAX：0192-27-9936）



- 7月には病気では**べと病**や**うどんこ病**、害虫では**ハダニ類**、**アブラムシ類**に注意が必要です。
- 早期に発病葉を摘葉**し、追加の特別散布を実施しましょう。

1 7月に注意が必要な病害虫

病害虫名	4			5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アザミウマ類(ハウス)																					
ハダニ類																					
アブラムシ類																					
べと病																					
うどんこ病																					
黒星病・斑点細菌病																					
炭疽病・褐斑病																					

☐ :発生時期 ☒ :重点防除時期

収穫の最盛期を迎えると、成り疲れて病害虫が発生しやすくなります。

褐斑病は気温 25℃以上の高温で降雨が多いと発生が早まるため、注意しましょう。

被害が拡大する前に特別散布に切り替えて、病害虫防除を徹底しましょう。

2 病害虫防除のポイント

○発生源となる発病葉の除去

病害が目立ってからの防除では十分な効果が発揮できません。

初発時に**病葉を摘葉**すると**褐斑病や炭疽病の広がりを遅らせる**ことができます。

初期の**発病葉を摘んだ後、直ちに**効果の高い**薬剤を散布**しましょう。薬剤を選択する際には、「令和6年度 夏秋きゅうり特別散布農薬一覧」を参考にしてください。

○農薬散布はアーチ両側から十分量を丁寧にしてください

散布むらは病害虫の取りこぼしや、耐性菌の発生につながり、新たな発生拡大の原因になります。防除の際は必ず、アーチの両側から十分量を丁寧にしてください。

○降雨前の殺菌剤散布を徹底してください

病害の感染は、降雨や結露によって広がります。継続した降雨前（感染前）に実施しましょう。降雨の前に薬液が乾けば、効果に影響はほとんどありません。

3 特別散布農薬（一部抜粋）

病害虫名	薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍数	備考
べと病	ベトファイター顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	3,000倍	
	ランマンフロアブル	収穫前日まで	4回以内	2,000倍	
	エトフィンフロアブル	収穫前日まで	4回以内	1,000倍	
うどんこ病	トリフミン水和剤	収穫前日まで	5回以内	3,000倍	
	モレスタン水和剤	収穫前日まで	3回以内	3,000倍	
	ショウチノスケフロアブル	収穫前日まで	2回以内	2,000倍	メパニピリムを含む農薬（フルピカフロアブル）と合わせて4回以内。
	カリグリーン	収穫前日まで	－	800倍	野菜類に登録。

令和6年6月12日の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬の使用は、必ず容器のラベルで使用基準（適用作物、単位面積当たりの使用量や希釈倍数、使用時期、有効成分の種類ごとの総使用回数）や注意事項を確認し、農薬使用者が責任を持って使用してください。

4 ホモブシス根腐病対策

- (1) 収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に**葉が萎れ**、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に**下葉から枯れ上がります**。
- (2) **土壌伝染性**の病害です。他の生産者の圃場を訪問する際は、**靴カバーの使用やビニール袋で靴を覆う**等、病原菌の拡大防止に努めましょう。



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。